

# 子供一人ひとりの個性と 支援方法

養護学校での陶芸作業支援  
スモールステップの作り方

原 和子

# 陶芸の特徴

➤ 即興性；造形の容易さ

粘土の種類が多様性（柔らかい～抵抗のある硬さ）

➤ 手指の運動と探索；三次元（立体）体験から二次元（線）、一次元（点）の認知へ

➤ 表現すること；作品としての自己投影、自我境界、身体シェーマ、身体イメージへ、精神分析学における「象徴性」  
= 粘土とうんち = お金 = 宝物 = 自己の分身

➤ 創造性の発揮

➤ 照らし返しの象徴；「自分の作品を忘れないこと（時間の連続性の獲得）」 「思いやりを持つ能力の達成（作品への愛着）」

# 陶芸**感覚統合**療法の目的： 楽しさと幸せへの道筋をみつける

## 1. 神経系の操作

- 情動（感情）の転換
- 覚醒レベルの操作
- 感覚剥奪の解消→やる気（モチベーション）up
- 感覚データの処理改善
- ストレスホルモンの代謝、幸せホルモン（オキシトシン）の分泌

## 2. 「できる！」：自立技能の確立（コンピテンシー）

## 3. 社会的技能（コミュニケーション能力）を持つ

- 微笑み
- 挨拶
- 目を見て会話できる

# 特別支援教育での陶芸学習

## 一回の陶芸作業過程

ウォーミング  
アップ

作業着着用  
挨拶  
グループ分け  
目標の提示

エクササイズ

粘土の感触体操  
粘土のちぎり  
ひもづくり/玉作り

ブレイク

飲水  
作業場所からの解放

エクササイズ

成形  
作品を置く色画用紙の選択  
プレゼンテーション準備  
自己評価として色シール貼り

フィードバック

鑑賞  
作品とともに写真  
撮影



# 作業目的：模倣から造形へ (グループA)

I D	学年	作業特性	疾患・障害名
A.女子	1年	絵が好き. 意欲にむらがあるが集中できる. 一連の作業が可能	自閉症スペクトラム
B.男子	1年	ヘッドフォンを常時使用している. 「先生お願いします」と支援を求めることができる. 協調動作可. 視覚支援が有効. 絵,色塗りを好む	自閉症スペクトラム
C.男子	2年	手順の理解可. 口頭の促し可. 作品目標を自分で立てられる. 手先は器用ではない	知的障害
D.男子	2年	こつこつ作業を進めることができる. 協調動作可. 他人に介入できる. やる気があり陽気. 座り込んでしまうことがある	ダウン症
E.女子	2年	笑顔があり、指導員の注意を引こうとする傾向が強い. 作業にのれると集中できる. 世話好き. 挨拶時など皆んなの前に立つのは好き	知的障害
F.男子	3年	手指・四肢筋力が弱い作業に集中できる. 時に体を揺らしながら笑顔を示す. 指先は器用.	ダウン症
G.男子	3年	落ち着きがなく、作業できない.男性教員に抑えられていることが多い.	自閉症スペクトラム

## 作業グループ Bの対象

作業目的；感覚を楽しむ

ID	学年	作業特性	疾患・障害
H.女子	1年	両手の握力弱く、遊ぶことが多い。	知的障害
I. 男子	2年	保護帽着用.傾眠傾向.身体弛緩により車椅子座位不良.流涎.作業不可	虚弱による四肢麻痺
J.男子	2年	筋力が弱い、最後まで取り組める	知的障害
K.女子	3年	道具を使えない、集中できず作業が続けられない。	ADHD
L.男子	3年	教員に攻撃的行動.絶えず右足で床を踏み鳴らし歩き回る	ADHD
M.男子	3年	小柄で円背.表情は硬いが目線を合わせられる、手の力が弱く作業が進まない、周囲を気にする	知的障害
N.男子	3年	転校生で外国籍、慣れないせいか消極的	レット症候群

CA	ID	動作と姿勢	エピソード記録と介入結果
1 依存	H	床に体育座り、頭を下げ不活発	注意転動 →床での座位保持に体力がついていかない。腹臥位推奨し、体幹背筋の強化と楽しみの発見支援
	I	床に腹臥位、胸の下にクッションを入れ顎をおさえることで手を前に出すことができる	腹臥位で粘土をちぎることが可。粘土を口にいれるが、体幹を安定させると口にいれることが減る。ひもができると手をたたき笑顔 →粘土練りを楽しみ体力と注意力の向上がみられた。体にあったプロンボートの検討が必要
	K	奇声、泣いて歩き回るが腹臥位で笑顔になる	触覚、視覚認知忌避するが腹臥位で重力負荷により両手動作可。超軽量粘土を使用、ヒモができ、褒められると喜ぶ → 重力など感覚刺激により、ボディシェーマからボディイメージ構築支援
	L	歩き回り、床を強く踏み鳴らしたり、ジャンプをくり返す	不快刺激に反応し攻撃あるいは逃避。歩きながら超軽量粘土、紙粘土ともに短いひもを作ることができる。それを指示に従い一ヶ所に投げられる。粘土を足で踏む指示には、やや抵抗（触覚過敏） →感覚統合による鎮静化が考えられるが、環境設定ができないため介入困難
	M	床にあぐら、円背、手の力が弱い	筋力低下のため形にできないが、努力がみられる。目立たないためか褒められる機会が少ない →普通にしているだけでも褒めまくり、自己の存在認識を高める
	G	不穏のため、ほぼ常時教員に抱き抱えられている	教員に甘え、抱き抱えから離れないか、時に抵抗する →感覚統合による鎮静化が考えられるが、環境設定ができないため介入困難

# レベル ID 動作と姿勢

# エピソード記録と介入結果

2 存在	B	椅座位	聴覚過敏。独創的造形に集中できるが作品の概念が未成熟、すぐ作品をつぶす
	C	椅座位、休憩時は常同歩き回る	不器用ながら、手順は理解されており、口頭の促しで作業できる
	D	椅座位、時々床に座り込む	準備・後片付けまで一連の作業過程にそって動ける、陽気
	E	椅座位	軽量粘土「気持ちが良い」
	J	床に体育館座り	筋力が弱いながら紙粘土、超軽量粘土により、全作業過程の最後まで取り組める、すぐ作品をつぶす →自我表現への援助
3 実在	N	割り座。	作品と過去の記憶を結ぶことができる。偶然にできたものに意味づけする。その語りを支援 →作品の照らし返しをくり返すことにより4あるいは5レベルへ支援できる可能性 移行対象支援。自己効力の認識支援。色つけなど付加価値を高め、自分の作品を大切にする
4 実存	A	椅座位。手掌の圧に左右左がありそう。母指使用（触覚過敏）	指導をよく見、聞き、反応する。作品に思いやりをもてる。確認を求める。 →承認による支援を求めに応じてくり返す
	F	椅座位	努力でき、一貫して継続作業が可能



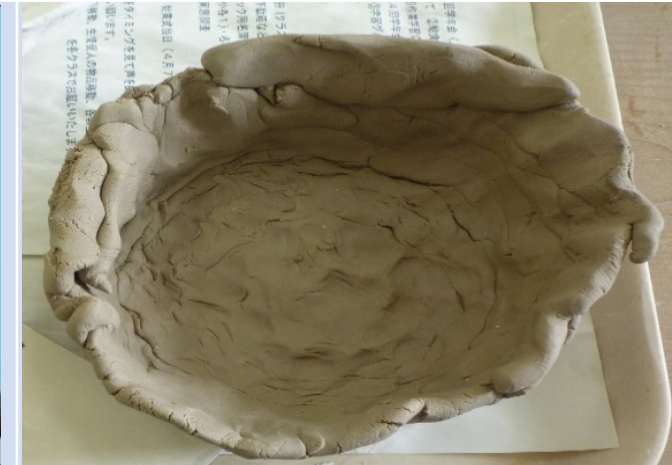
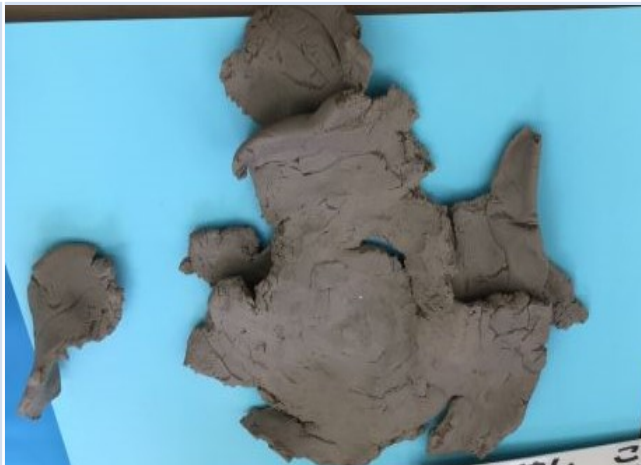
# グループAの作品例

20.19.6.26

2019.11.21

2020.1.26

2年 C 男子  
知的障害



3年 F 男子  
ダウン症



# グループBの作品例

20.19.6.26

2019.11.21

2020.1.26

3年 K 女子  
ADHD



欠席



3年 L 男子  
ADHD



# 陶芸の意味探索から考えるstep

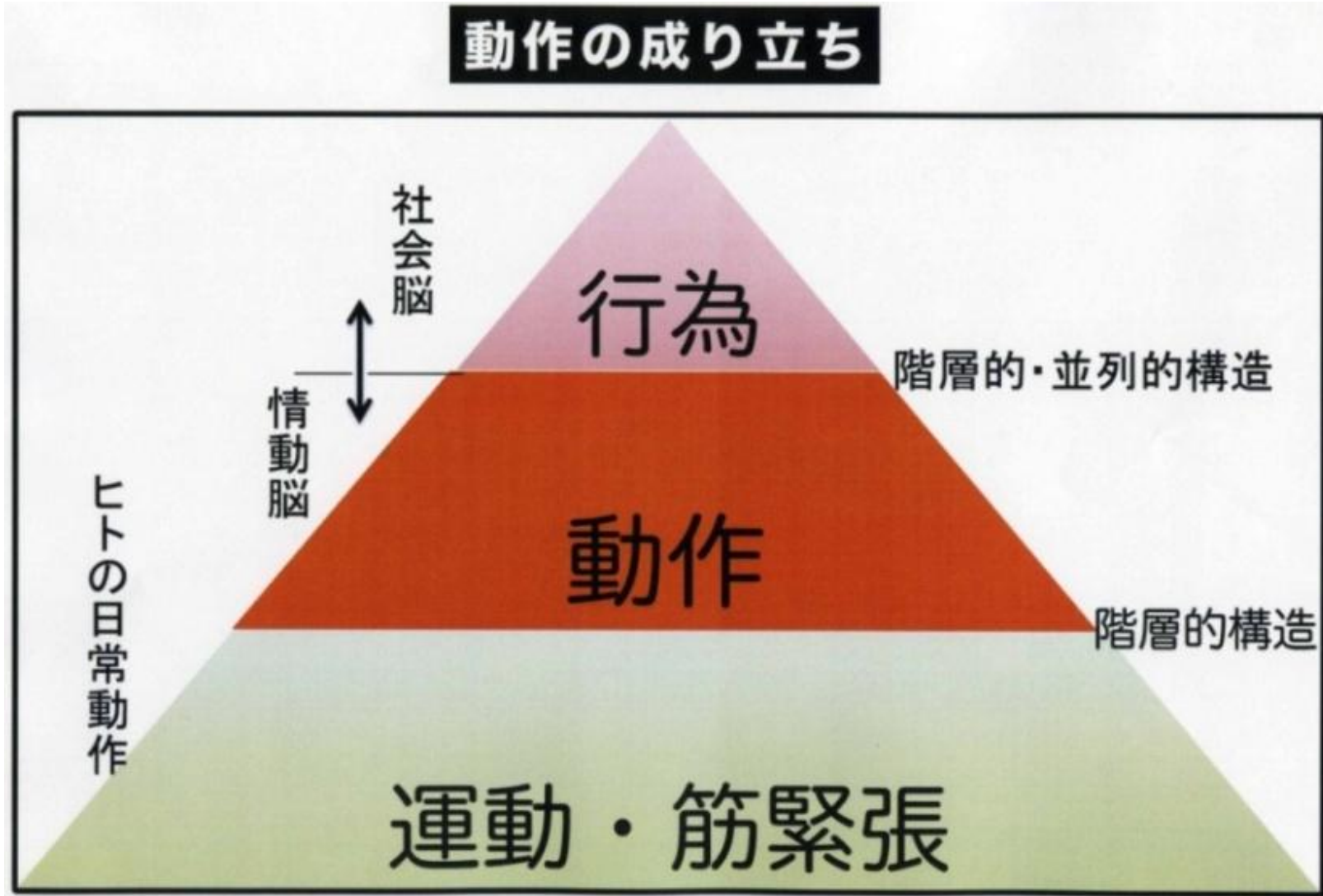
1. 依存レベル	粘土の素材感覚を楽しむ
2. 存在レベル	粘土への執着 同じものを繰り返し作る
3. 実在レベル	偶発的な形に名前をつける
4. 実存レベル	造形経験と学習ができる 構成的作業ができる
5. 超越レベル	創造性 自分を離れて普遍的な価値をもつ



陶芸要素	(Ayers,A.J.) 感覚統合	(Freud,J.) 精神分析象徴性	(Winnicottz,D.W.) 移行対象理論
1. グチャグチャの楽しみ。 粘土を口に入れる。自分の粘土、作品という認識はない。→粘土に触る前向きな気持ちを支える。	触覚と圧覚 粘土の抵抗による覚醒刺激あるいは柔らかな触覚刺激による鎮静効果	口唇期	カオス 対象（乳房）
2. 粘土への執着、お気に入り。何度も同じものを作る。繰り返し →照らし返す。	素材の認知	肛門期 自己愛 イド	母親に抱えられ照らし返されることを繰り返して自己の一部としていく。
3. 偶発的にできた形に名前をつける →「これ何かな」など	作品と自分との関係初期段階	エディプス期 自我への一歩	内的現実 照らし返し 良いもの発見
4. 造形経験と学習 構成的作業	素材の感覚を生かして表現できる	潜伏期 自我の確立へ	外的世界、文化的領域、抑鬱、整理整頓
5. 創造性の発揮 自由な作業	小集団での交流を含めた活動	性器期 超自我へ	重なり合う、中間領域、豊かな精神界



# 運動学習の階層性



重力に適応する姿勢







動作を通して他人と自分がわかる



行為とは自分のニーズに基づいた行動



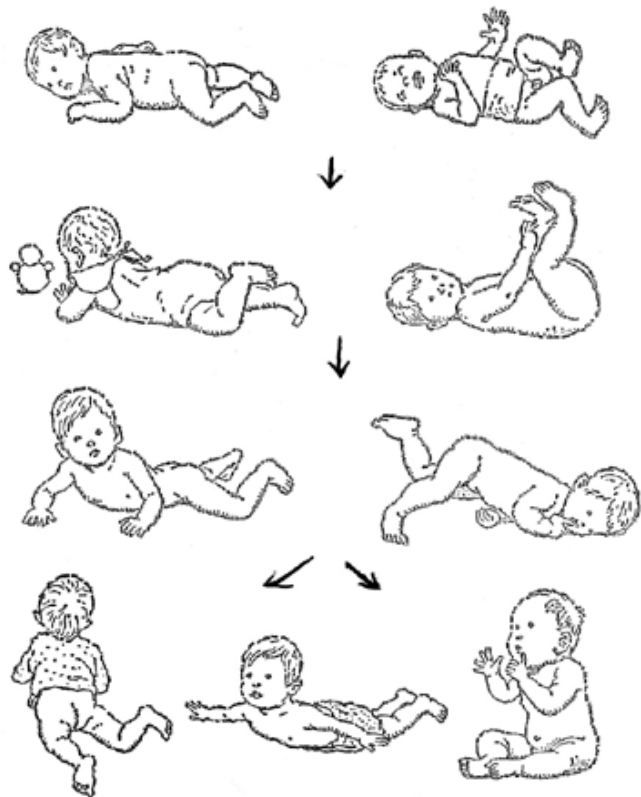
社会的な適応

動作発達 レベル	脳の核	機能	動作の具体例
A 緊張 (トーン)	錐体外路 赤核 (淡倉球からの信号を中継して脊髄へ)	筋緊張 滑らかな動き (動的平衡) 相反抑制	
B 筋一関節 リンク	淡倉球 (新生児は淡蒼球が完成する頃に生まれるが、まだ脊髄が未発達。爬虫類のレベル)	単純な繰り返しの移動動作 常同的な四肢のリズミカルな運動 (視床との中継が未熟なため、視覚、聴覚との関連は少ない)	
C1 動作 C2 操作	線条体  一部皮質	移動動作 (繰り返しではない)  目的の点に移動し、それを操作する	
D 行為	錐体路 皮質	巧緻性動作 (デクステリティー)	

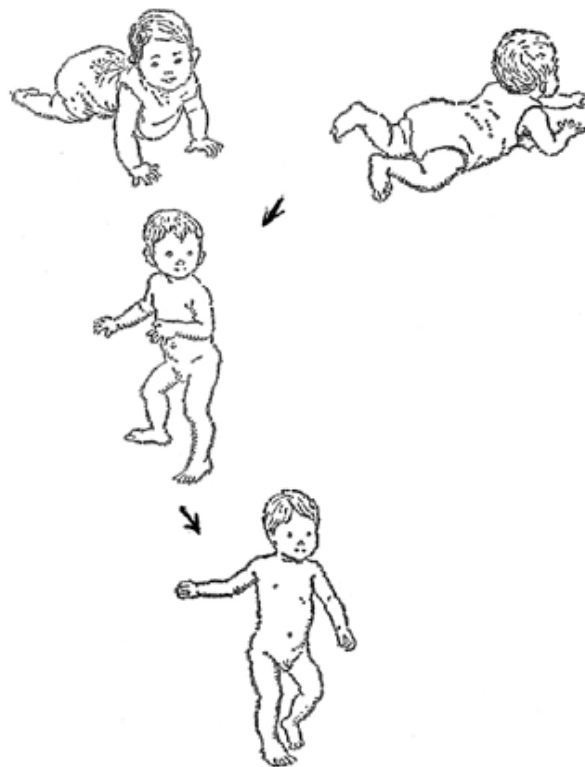
# 運動・筋緊張レベル 立ち直り反射、平衡反射、姿勢反射



自発運動から  
随意運動へ



興味が姿勢  
変化を創発



平面（重力）への定位から  
空間（3次元）への定位まで

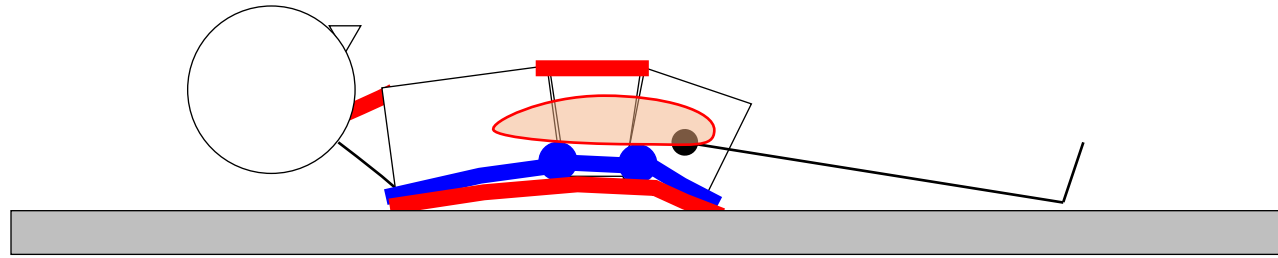
狭い場所で物や人に触れ合うことで身体図式を確立していく(拘束が重要)



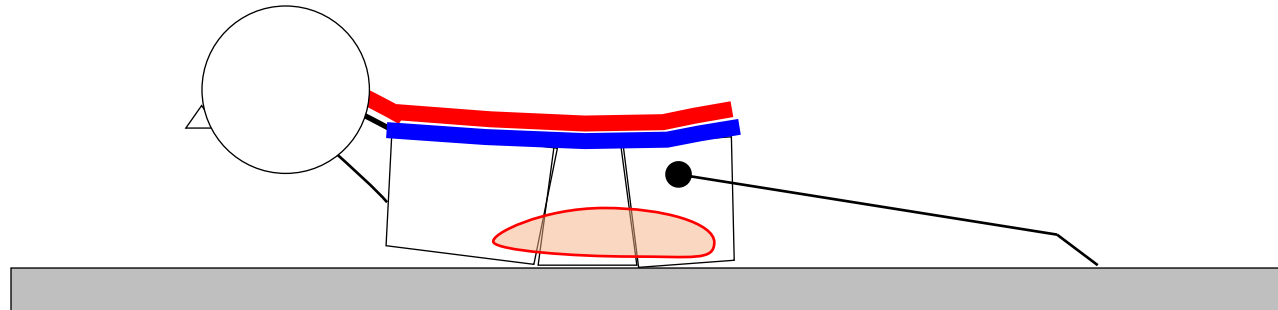
立って歩いてから平衡反応(身体図式)の獲得にはさらに10年以上かかる

# 腹臥位では筋緊張のアンバランスが生じにくい

背臥位



腹臥位





# 陶芸による問題解決への過程や手順

レベル	問題解決過程	手順
1 依存	安心して粘土感覚を楽しめる環境づくり 重力不安・触、視覚刺激認知の不統合を調整	→ 腹臥位作業姿勢（脳の運動機能をつかさどる赤核/淡蒼球レベルの運動・筋緊張調整）
2 存在	「作品をつぶす」；自己の否定、自己破壊、抱えることのできなさ →現象を創造と復活の繰り返しによる自己保存として許容しながら支援	
3 実在	有能感支援から創造性につなげ 人格の一部となるようにかかわる 照らし返し；自分の作品を忘れないこと＝時間の連続性の獲得	
4 実存	作品への思いやりをもつ＝他者との交流、自分と他人、お互いが重なり合う 領域を創出するよう支援	
5 超越	創造性を育む環境	